

病害虫発生予報 第7号(10月予報)

和歌山県農作物病害虫防除所

＜予報の概要＞

作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
トマト・ミニトマト	黄化葉巻病	やや多	野菜・花き全般	ハスモンヨトウ オオタバコガ	並並
エンドウ	褐斑病、褐紋病 うどんこ病 つる枯細菌病	並並並	カンキツ	ミカンハダニ	少
アブラナ科野菜	コナガ	並	カキ	炭疽病 うどんこ病 円星落葉病 角斑落葉病 フジコナカイガラムシ	多 少 やや多 少 やや少
野菜・花き全般	アブラムシ類 ハダニ類 ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ シロイチモジヨトウ	やや少 やや少 やや少 並多	果樹全般	カメムシ類	多

気象予報

1か月予報（予報期間 9月22日～10月21日 大阪管区气象台）

＜特に注意を要する事項＞

期間の前半は、日照時間が少なく降水量の多い状態が続く見込みです。

＜予想される向こう1か月の天候＞

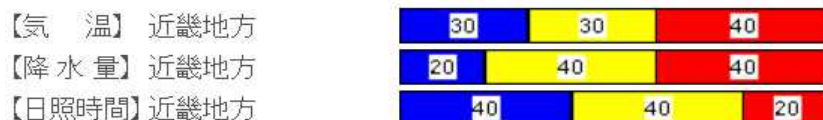
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、平年並の確率50%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞

凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

	月平均気温 (平年値) (℃)	月降水量 (平年値) (mm)
10月	和歌山 18.8	和歌山 121.5
	潮岬 20.2	潮岬 243.8

I. 野菜・花き

<トマト、ミニトマト>

1. 黄化葉巻病

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地栽培ミニトマトにおける8月中旬の発生ほ場率は100%（平年54%）、発病株率は60.6%（平年21.2%）であった。
- ② 県中部の施設栽培ミニトマトにおける9月中旬の発生ほ場率は19%（平年7%）、発病株率は0.9%（過去9年の平均0.4%）であった。

- (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 台風通過後は、施設の外張りフィルムおよび防虫ネットの保守点検を必ず行う。
- ② 定期的な薬剤散布により本ほ初期のタバココナジラミ防除を徹底する。
- ③ 発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り、直ちに土中に埋めるか、ビニル袋に密封して完全に枯死させてから処分する。
- ④ 露地栽培トマトおよびミニトマトについては、栽培終了後はほ場外へのタバココナジラミの分散を防止するため、誘引したまま抜根して速やかに枯死させ本虫を死滅させる。
- ⑤ 平成30年度病虫害発生予察注意報第5号（8月30日発表）を参照する。

<エンドウ>

1. 褐斑病、褐紋病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。
- ② 10月の気象予報による。

- (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 抑制栽培では、開花期ごろからの発生に注意する。
- ② 多湿ほ場で発生しやすいので、排水を良くする。
- ③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

2. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。
- ② 10月の気象予報による。

- (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 開花期ごろから発生する。発生初期より防除を行う。
- ② 乾燥条件が続くと発生が多くなる。

3. つる枯細菌病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。
- ② 10月の気象予報による。

- (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が似ているので注意する。褐斑病、

褐紋病が日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見えることで区別できる。

- ② 防風ネットの発病抑制効果は高い。
- ③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

<アブラナ科野菜>

1. コナガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平年0頭）、和歌山市10頭（過去7年の平均16.6頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
- ② 収穫後に作物残さを放置するとそこが発生源になり、周辺のほ場に成虫が分散して発生が多くなるので、収穫後は速やかに残さをすき込む。

<野菜・花き全般>

1. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬のモモアカアブラムシの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率18%、生息葉率1.6%）、ワタアブラムシの発生ほ場率は17%（平年28%）、生息葉率は0.7%（平年6.0%）であった。

② 黄色水盤（紀の川市）への9月1～20日の飛来数は、46頭（平年111.8頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① シルバーマルチは有翅虫の飛来防止効果がある。
- ② ネオニコチノイド系薬剤に対する感受性が低下したワタアブラムシが発生している地域があるので注意する。

2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬のカンザワハダニの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率20%、生息葉率4.6%）、ナミハダニの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率13%、生息葉率1.5%）であった。

② 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬のハダニ類の発生ほ場率は14%（過去9年の平均36%）、生息株率は2.1%（過去9年の平均15.0%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① キクに発生したナミハダニが移動するので、キク栽培ほ場に近いほ場では特に発生に注意する。
- ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
- ③ 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬の発生ほ場率は17%（平年66%）、生息葉率は6.0%（平年25.9%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 促成栽培ナス等の育苗は発生ほ場の近くで行わない。また、施設の開口部に防虫ネットを展張し、成虫の飛び込みを防ぐ。
- ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
- ③ 発生が多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。

4. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率1%、生息葉率0.1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ミナミキイロアザミウマに準ずる。
- ② イチゴではミツバチの導入前に徹底防除を行う。

5. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は57%（過去9年の平均26%）、生息株率は12.9%（過去9年の平均6.3%）であった。
- ② フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市210頭（平年23.9頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期（ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき）の防除を心がける。
- ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
- ③ 平成30年度病害虫発生予察注意報第8号（9月28日発表）を参照する。

6. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率21%、生息葉率1.9%）であった。
- ② 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は36%（過去9年の平均29%）、生息株率は5.0%（過去9年の平均4.5%）であった。
- ③ フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市413頭（平年268.0頭）、和歌山市761頭（過去7年の平均1,068頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① シロイチモジヨトウに準ずる。

7. オオタバコガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は14%（過去9年の平均17%）、生息株率は1.4%（過去9年の平均3.2%）であった。
- ② フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市73頭（平年12.3頭）、御坊市1頭（平年4.1頭）、印南町1頭（平年6.1頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期の防除を心がける。

Ⅱ．果 樹

<カンキツ>

1. ミカンハダニ

- (1) 予報内容 発生量 少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部（海南市下津町）、県中部における9月中旬の発生園率は0%（平成31%）、発生葉率は0%（平成7.5%）であった。
 - ② 予察ほ場（無防除、有田川町奥）における9月中旬の100葉あたり雌成虫数は0頭（平成0.5頭）であった。
 - ③ 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統の薬剤は年2回以上使用しない。
 - ② 秋季の防除が遅れた園では、早急に薬剤散布を行う。

<カ キ>

1. 炭疽病

- (1) 予報内容 発生量 多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生園率は35%（平成15%）、発病果率は1.1%（平成0.7%）であった。
 - ② 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 発病果は伝染源になるため、園内を巡回し、発病果を速やかに採取して土中に埋める。
 - ② 発病果がみられる園や降雨が続く場合は薬剤防除を行う。また、台風が接近する場合は事前に薬剤を散布し、できなかつた場合は台風通過後速やかに散布する。
 - ③ 薬剤防除は、耐性菌対策として同一系統の薬剤は連用しないように注意する。
 - ④ 軟弱徒長した枝が増えないように施肥による窒素過多や強剪定を控える。冬季の剪定時に病斑を形成した枝を除去する。
 - ⑤ 排水不良園、密植で通風の悪い園は発病しやすいため、園内の環境改善に努める。
 - ⑥ 平成30年度病害虫発生予察注意報第7号（9月21日発表）を参照する。

2. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量 少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生園率は29%（平成82%）、発病葉率は2.1%（平成17.7%）であった。
 - ② 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏に丁寧に薬液を散布する。
 - ② 秋季になり気温が低下すると再び病勢が増すので、二次伝染防止に努める。

3. 円星落葉病

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠

- ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生園率は12%（平成4%）、発病葉率は0.4%（平成0.1%）であった。
- ② 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 本病は樹勢の低下により発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。

4. 角斑落葉病

- (1) 予報内容 発生量 少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生園率は0%（平成42%）、発病葉率は0%（平成4.7%）であった。
 - ② 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 円星落葉病に準じる。

5. フジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生園率は47%（平成82%）、寄生果率は3.2%（平成13.8%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 本虫は主に果実とへたの間隙部に寄生しているのので、薬液がこの部分にかかるように丁寧に散布する。

< 果樹全般 >

1. カメムシ類

- (1) 予報内容 発生量 多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部における9月中旬のカキの被害果率は、「富有」で12.1%（平成7.7%）、「刀根早生」・「平核無」で0.7%（平成1.0%）であった。
 - ② 紀の川市粉河の予察灯による9月中旬の誘殺数はチャバネアオカメムシ368頭（平成160頭）、ツヤアオカメムシ304頭（同76頭）であった。
 - ③ 有田川町奥の予察灯による9月中旬の誘殺数はチャバネアオカメムシ244頭（過去4年平均84頭）、ツヤアオカメムシ218頭（同56頭）であった。
 - ④ みなべ町東本庄の予察灯による9月中旬の誘殺数はチャバネアオカメムシ995頭（過去8年平均3,192頭）、ツヤアオカメムシ905頭（同1,954頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 果樹カメムシ類の飛来量は園地間差が大きく、特に山林隣接園では早くから被害が出やすい。
 - ② カキでは「富有」、カンキツでは収穫時期の早い極早生品種で被害が大きいため発生に注意する。
 - ③ 園内での果樹カメムシ類の発生及び被害状況をよく観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
 - ④ 台風通過後や強風後には、一時的に飛来が多くなることがあるので注意する。
 - ⑤ 平成30年度病虫害発生予察注意報第6号（8月31日発表）を参照する。
 - ⑥ 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病虫害防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稻、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780